

## 序

未曾有の強風をともなった台風を前触れに秋の季節を迎えました。しかし、清水建設に勤務する私共にとっては、この秋は悲しい秋になりました。

人一倍、工事の質に気を配られ、技術の研究に深い理解、というよりも興味をもっておられた良き社長と永別しなければならなかったからです。

私共は、亡き社長の御遺志を継ぎ、益々心を新たにして、役に立つ研究に励んでゆきたいと思います。

この一篇を今は亡き故社長の霊に捧げ、その御冥福を祈りたいと思います。

1966年10月

清水建設研究所 所長

大 築 志 夫